ライバル

W校　高等部二年
櫻井　琢斗

私がこのトピックにした理由は、最近よく「ライバルは必要ない」という意見を元スポーツ選手が言っているのを聞いたからだ。そこで「ライバル」の意味を調べてみた。語源由来辞典によれば、「自分と同等もしくはそれ以上の力を持ち、競い合いながら互いにを高め合うことのできる相手が」がライバルだ。つまり、単純な敵対関係とは異なり、その関係の奥底には信頼や尊敬など相手を認める気持ちが存在するということだ。だから、時には助け合うこともある。

ライバルで思い出すのが、私の中学校時代の卓球部であったことだ。私の先輩にとても強い人がいた。校内ではエースで誰でも勝てる人がいなかった。大会に出ると、常に一位か二位だった。だがある時、四位まで成績が落ちた。今までは勝っていた他校の相手に負

けてしまった。先輩曰く「相手選手には、同じ学校内で強さが同等で競い合う選手がいた。互いに技術を高め合いながら練習したから強くなったのだ。」と。この話ではライバルがいかに必要かということが分かる。なぜなら先輩は学校内では無敵の一位だったが、大会では順位が下がってしまったからだ。同じ学校にライバルがいるのといないのでは毎日の練習の質が変わるから、その積み重ねで選手の力に差が生まれてしまうのだ。

さて、企業の場合はどうだろうか。日本は少子高齢化が進んでいる。そのため労働者が減って、企業側が就活生と呼ばれる、就職活動をしている学生に選ばれる立場に変化した。そのため、企業側が色々とアピールするべく、演出するように変わってきた。企業はライバル会社にかつためにより魅力的にならなくてはいけない。そのための努力をし始めた。私たち学生にとって」就職活動に有利な今の現状は良いことである。ライバル会社が

いなければ企業は独占状態になり、学生は選ぶ立場にならなければばかりか、企業の言いなりになってしまうだろう。

もちろんライバルは必要じゃないという意見も分かる。視点を変えるとライバルは自分の邪魔をしているともいえる。例えば先に述べた部活の話ならば、先輩は他校のライバルのせいで順位が下がったのだ。企業の話では、就活生にとっては良い事だが、企業側からすれば、就活生にとっては良い事だが、企業側からすれば、就活生を取り合う競争が多くなって、苦しい戦いになる。つまり、ライバルがいない方が楽が出来るのだ。負ける苦しみを感じずにすむし、そのために努力しなくても良い。しかし、「楽が出来る」「苦しまなくてよい」ことは本当に良いことなのだろうか。

あこの世からライバルという概念が無くなってしまって、誰もが楽して生きていくような社会になったら、その地域は衰退していくと思う。競い合うことで自分の技術が磨くこ

とが出来るのであれば、「ライバル」は社会を
より豊かにするために必要なのである。

怒ってはいけない教育

W校　中等部三年二組
柴田　紗良

私は今年沖縄のキャンプに行った。海遊び、シュノーケル、沖縄の食べ物や歴史を目当てに行ったけれど、もっと印象に残ったことがあった。

私の入ったキャンプは四年生から中学三年生の子たちが来るキャンプで、行ってみるとほとんど私より年下だった。年下と言っても一応四年生なので面倒を見るのはあまり大変ではないと思った。けれど私は間違っていた。このキャンプには不登校の子や、そのような問題がある子が来るところだったので、とてもセンシティブで、すぐ泣いてしまう子やいう事を聞かない子もいた。例えば、せっかく沖縄に来ているのに、海が嫌ででで一回も入らない子、一日中どこもいかず宿泊していたところで寝ている子、毎日見ていると少し

注意したくなってきた。けれど驚いたことにリーダーは誰一人怒らなかった。

ある日、二人の四年生がけんかを始めた。一人は泣いてしまい、もう一人はずっとすねたままだった。それを見て私、と中一の女の子が駆け寄ってリーダーも一緒に来た。さすがにリーダーも少しは注意するだろうと思ったが、リーダーは二人の話を聞くだけで何もしなかった。隣で中一の女の子がボソッと、“御免なさいって誤れば済むのに。”と言っていた。

私はキャンプから帰って母にこのエピソードを話すと、母、“このキャンプは子供に怒らず、子供が問題を解決できるまで見守る方針なんだよ。”と教えてくれた。その言葉でキャンプ中に誰も怒らなかった理由がよくわかった。最初はその考え方は変わっていると思ったが、思い出してみると、最初は頑なに謝らなかった子も最後は謝るようになっていた。リーダーが起こらなくても問題は子供た

ちだけで解決することがほとんどだった。気づくと私自身が変わっていた。いつもなら小さなことでイライラする私でも“なんくるないさー（なんとかなる）”という沖縄式になり穏やかになっていた。

ニューヨークは競争社会だけれど、世界ではそうではないところがあることが知れたことは、私にとってもプラスなことだと思った。

花火

W校　中等部三年一組
宮崎　真弥

夏は花火だ。

六月に入る頃、友達が私にそういってから、意味がわからないまま夏休みに入ってしまった。湿った日本の夏はジリジリと皮膚を焼き、体力的にも精神的にも疲れる日がしばらく続いた。慣れない環境が、音が一つずれた音楽のように不気味に響いていてさらに疲れを重ねていた。だけど、そんな私は今しかない１５歳の夏休みを満喫していた。

そんなある日、知り合いに誘われ、第45回の足立の花火大会に行くことになった。この花火大会は東京の夏花火では最も開催が早い大会で一時間で約一万3600発を打ち上げ、高密度に凝縮された構成が魅力的な花火大会だ。流石に人数が多かったので少し離れたビルの屋上で見ることにした。

「そう言えば逢坂くん、夏前になんかいって

たよね。なんだっけ、、夏は。」
　覚えてるけど、覚えてないふりをしてしまった。自分でもどうしてそうしたのかわからない。そんな私の変な罪悪感のようなものは気付かず彼は少し笑いながら答えた。
「あぁ、夏は花火だ、だよ」
知ってる。でも意味がわからないなんて、悔しくて言い出せなかった。
　しばらく雑談していると、遠くから始まりの合図の音楽が流れる。６６万人の注目が一気に夜空に、その一瞬でみんな息を飲んだ。深い夜に咲く花は言葉では表せられないほど美しく飽きさせない魅力があった。そのかすかな火薬の香りで人は改めて「夏」であると感じるのだろう。その多彩なプログラムで蕾から放たれる火花は飛び回り、彩り豊かな色彩が暗闇とともみたくさんの人を照らした。一瞬空に打ち上げられすぐ消えて無くなってしまうのに、壮大な音と光に覆われ、また一つ打ち上げられる。

今なら、わかるかもしれない。逢坂くんが言ってた言葉の意味。それは夏が花火みたいに儚く、すぐ終わってしまうんだと。

「逢坂くん、何で夏は花火なの。」

いきなり聞いたからか、彼は驚いた顔をしていた。

「夏って、ほら、楽しいから」

呆れた顔をして笑いながら続けた。

「でも花火みたいにその時は楽しいけど終わった時、すごい寂しくなる、、」

少し照れくさそうにする彼の横顔が彼の優しさを伝えてくる気がした。逢坂くんの話は別に難しいというわけでもなく、当たり前のことだった。考えすぎか、と自嘲していると逢坂くんは花火を眺めながらポツリと呟いた。

「それに、夏終わったらお前帰っちゃうじゃん、、」

逢坂くんはそう呟いてから、はっとこちらを向いてしばらく互いに驚いて戸惑った顔をした。自分がその時どんな顔をしていたのかが

わからないが、相当面白いことになっていたと思う。

「逢坂くんは情熱的ですな。」

私が笑うと彼は顔を真っ赤にして私を睨む。顔が赤いというと、花火の光に当てられたせい、と言って聞かず、その時は納得したが、今考えるともうすでに花火は終わっていた。

それから逢坂くんの予言通り、風のような早さで日々は過ぎていき、とうとう夏休みの最後の日。照れていた彼の横顔は私の中で花火以上の夏の思い出となった。

核兵器のない世界に

LI校　中等部三年一組
イスラス　ダニエル

日本のおばあちゃんは七十五才。いつも明るく元気なおばあちゃんは、七十三年前、二才の時に広島で被爆しました。

原子爆弾が落とされた時、まぶしい光の後、目の前のたんすが倒れてきて、おばあちゃんはもう少しで下じきになりそうでした。トイレに行く前で、おしりに割れた窓ガラスがささったそうです。爆心地から二・五キロの所にいたそうです。家族が十人、原爆で亡くなりました。

眼科医だったひいおじいちゃんは、出勤途中に爆心地から一・五キロの所で被爆しました。一瞬のうちに、服に火がついたので、ころころ転がって火を消したそうです。

三年前に広島に行った時、平和公園を訪れました。原爆慰霊碑の前で、手を合わせて祈りました。日本のおばあちゃんも、いつか亡

くなったら、被爆者としてそこに名前が納められると、母から説明されました。

去年、国連で核兵器禁止条約が採択されました。そして、条約の採択に大きく貢献した核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞を受賞しました。この核兵器禁止条約は、九月までに六十九カ国が署名、十九カ国が批准しました。しかし、唯一の被爆国である日本が、この条約に賛同していないのは、皮肉な話です。

現在、世界九カ国が、約一万五千個の核兵器を持っています。二〇十七年には、一兆七千億ドル以上のお金が、武器や軍隊に使われたそうです。

日本は世界でたった一つの被爆国として、核兵器禁止条約に賛同して、世界から核兵器がなくなるよう、働きかける責任があると思います。

おばあちゃんが被爆者ということは、僕は被爆三世。被爆者の高齢化が進んで、どんど

ん亡くなっています。広島や長崎の経験を誰かが語り継いでいかなければなりません。

この間、現地校で原爆の話をする機会がありました。チャレンジデーというイベントがあって、ゲームをやりながら、差別、戦争、いじめ、暴力など、いろいろな体験をした人に対して、理解を深めようというものです。僕は、戦争で家族が亡くなった人というトピックの時、おばあちゃんの原爆体験を生徒百二十五人の前で話しました。女の子の中には、泣いている人もいました。被爆三世として、僕にできることは今後やっていきたいと思いました。

原爆は危険です。アメリカにも六千個以上の核兵器があります。しかも、広島や長崎に落とされた原爆より強力です。古い核兵器が何かの間違いで倉庫で爆発したら、アメリカは破滅してしまいます。

核兵器のない世界と平和を求めます。核兵器が使われたら、美しい地球は廃墟になりま

す。命を大切にし、地球を守っていくのが、
僕たちみんなの使命だと思います。

宿題＊何故早く終わらせるのか

W校　中等部一年二組
大西　琳太朗

「早くしないと後で困るよ。」
「楽しいことできないよ。」
「後で泣いても知らないよ。」
こういう言葉を夏中来ていました。僕は、大丈夫だよと、ずっと言い返していました。自分でもその言葉を信じていました。補習校の二週間前までは。二週間前なのに、僕は、宿題の九十パーセントを終わらせていませんでした。現実が、僕の顔にバケツの水をかけたみたいでした。水をかけられた僕は、水の冷たさに驚きました。こんなに冷たい水があるなんて信じられませんでした。僕はこの夏、宿題を早くやらないと大変なことが起きるということを学びました。

夏の間、早く宿題を日ないといけない理由は三つあります。一つ目の理由は、宿題をしないとせっかくリラックス出来る夏が、台無

しになるということです。僕の意見に反対する方は、

「夏の最初の方でリラックスし、後で宿題をやれば良いだけじゃない。」

と、いうかもしれません。ですが、宿題という追っ手は、いつも後ろの方で、

「今は逃げられても、いつか絶対追いつくぞ。」

と、叫んでくるのです。そして、頭の中ではずっと、宿題がまだ終わっていないと、思っているのです。宿題に、こういうじわじわとした攻め方をされたくなければ、振り向いて戦うのです。そうすれば、時間に遮られずに、自分の得意な戦い方で向かい合えるからです。自分の得意な戦い方だったら、負ける確率は低いですし、焦らずに自分のペースに合わせて戦えます。たとえ負けても、せめて悔いのないように負けられます。このように、宿題と早く戦わなければ、せっかくの夏が台無しになってしまいます。

二つ目の理由は、普段のスケジュールが狂うということです。宿題が終わってないと、夏休みの終わりに、夜寝るのが遅くなることがあります。で、朝起きる時間は変わりません。夜遅く寝て、朝普段の時間に起きると、体調を崩すことがあります。体調を崩せば、夏を満喫できません。しかも、宿題をする時間がさらに減ります。そして、また夜遅く寝ることになります。宿題も終わっていない上に体調も良くない、こんな夏を僕は過ごしたくありません。宿題は、早くやらないと、僕を使ってジェンガを遊び始めるのです。ピースを一つずつ抜き、いつ崩れるか見ているのです。そしてやっと崩れたら、

「あーあ、崩れちゃった。」

といい、また遊び始めるのです。これを防ぐには、早く宿題位を終わらせ、崩せない土台を作ることが大事です。このように、宿題は早く終わらせないと、僕を崩していく存在に

なってしまうのです。

最後の理由は、宿題をしないと、他の趣味ができなくなるということです。考えてみてください。宿題をずっとしていたら、好きなことをする時間はありますか。宿題はたまると、それだけにしか集中できなくなってしまうのです。他のことをやる時間はなくなり、夏の残りは宿題をする時間になってしまいます。ちゃんと宿題をやっていれば、夏の終わりを楽しく過ごすことができます。しかし、宿題をしなかったせいで、夏の終わりが楽しくなくってしまうのです。何故なら、ずっと宿題のことを考えて、ずっと宿題をやっているからです。このように、宿題を早く終わらせないと、趣味をする時間がどんどん盗まれていくのです。

三つの理由で説明したように、夏の宿題は、早くやればやるほど、夏がもっと楽しくなります。宿題を早くやれば、宿題は僕の友達になります。もし宿題が早く終わったら、僕は

友達などに自慢できます。そして夏の残りの間、もう宿題は終わったぞ、と思いながら過ごせます。

僕はこの夏、宿題をもっと早くやらないといけないと言うことを学びました。

初めての日本中学校生活

W校　中等部一年一組

渡邉　喜

今年の日本は猛暑でした。そんな中で、僕と弟の慧は祖父母が暮らす前橋市の第六中学校に体験入学しました。昨年まで、小学校へ体験入学していたのですが、中学校は初めてなので不安でいっぱいでした。初めて登校した日、玄関を入ると、「渡邉喜君、慧君、ようこそ六中へ」とホワイトボードに書いてありました。用務員さんが

「教頭先生が一生懸命準備していたよ。」

と教えてくれました。僕はその時、少し不安が消えました。

僕は一年二組、弟は一年四組での学校生活が始まりました。僕の担任の先生は鷲頭先生という優しい女の先生でした。僕達が行く前日まで期末テストだったため、しばらくはテスト返しの連続で、僕はとても暇でした。先生の話や友達の様子から、アメリカの補習校

よりも学習がとても進んでいると感じました。

第六中学校は、総社小、勝山小、清里小の三つの小学校から生徒が来ています。僕にとって、勝山小と清里小の生徒は初めて会います。だけど、みんなはとても優しくて、すぐに友達になれました。みんなは僕に英語についてあれこれ聞いてきました。例えば「〇〇を英語で言って」とか「これ、どうやって発音するの」と聞かれます。中学校になると英語が教科として始まったからではないかと思います。夏休み直前の学活の時間に、アメリカの現地校やマンハッタンやジョン万次郎について写真を使って紹介しました。みんなは学校の建物の全景、校庭や体育館の広さと大きさにびっくりしていました。タイムズスクエアの人混みや鮮やかな街の様子に、すご～いと感激していました。そして、友達のダンスのビデオにはどっと笑いました。

僕が一番難しかったと思った授業は道徳で

す。僕のクラスでは、福祉や命について学んでいました。父が日本の出張のお土産で買って来てくれた『君たちはどう生きるか』の本にすごく似ている内容だと思いました。主人公のコペル君は正しく生きる事を強く思っているから、今は苦しみをいっぱい味わっているという話です。そして本には、「自分の生き方を決定できるのは、自分だけだ」と書いてありました。道徳の授業でもこの本と同じような事が話されました。さらに、道徳の授業の中で「七月イジメ等に関するアンケート」がありました。これは、七月と書いてあるので、毎月やっていると思います。僕はこのアンケートが、すごくいじめに対して考えていると思いました。日本では、毎日のように、学校いじめ問題が報道されています。社会で問題視されながらも、一向になくならないのが現状のようです。だからこのアンケートをやっていると思います。アンケートを見ると、いじめに当たる行為が書かれていて、当ては

まるものに丸をつけます。さらに、いじめられた人が誰かに相談したかという質問もありました。これは、一人で悩まないでというメッセージだと思います。さらに、友達がいじめられているところを見た時、あなたはどうするかという質問もありました。こんな場面がコペル君の話にもありました。だから、道徳はすごく大切で深い意味があると思いました。

いじめ問題以外に、ＳＮＳの危ない問題もあります。学校で群馬県警察が作ったチラシをもらいました。そこには、「尾瀬の神様」と書いてありました。尾瀬は群馬県にある国立公園です。僕と弟は去年に尾瀬に行ったので、聞いたことのある名前だなと思い、このチラシを見てみました。そこには、「尾瀬の神様」の七つの頭文字から始まる、ＳＮＳに危険防止の合言葉が書いてありました。意味は、「お」は写真を送らない、「ぜ」は絶対会わない、「の」は個人情報を載せない、「か」は悪口を書き込

まない、「み」は有害サイトを見ない、「さ」は出会いを探さない、そして「ま」はルールを守るという意味です。第六中の場合では、電話を持っている人が少ないので、少しは大丈夫だと思いますが、アメリカの中学生はほとんど電話を持っているので、これはすごくみんなのために大切だと思いました。

六中の体験の中で毎日楽しみにしていたのは給食で、アメリカでは食べられない日本の料理がいっぱいありました。例えば、夏野菜カレーや白身魚フライ、ちくわのカレー揚げがありました。一番驚いたのは、給食には六群に分かれた食品が計算されている事と、ほとんど群馬県産の食材で作られている事です。

そういうのを、地産地消というそうです。

初めての中学生での体験入学は不安と同時に楽しさがいっぱいあって、小学校の時とは違う新しい経験ができたと思います。

シエスタキーの青い海

小学校六年二組　井手涼

今年の夏、僕はフロリダのタンパという場所に旅行に行った。行く前にタンパで何をするか計画を立てるように言われたので、兄といろいろ考えた。空港に着いてから、有名なタンパの水族館に行く。ホテルで一休みして、近くの海を見に行く。その日はシーフードなどを食べ、次の日も海に出かける。毎日、クリアウォーター、フォートデソト、セントピーターズ、それにシエスタキーという四つもビーチに出かけるという大計画だった。

中でも、フォートデソトという島のようなところの海に行った事が一番の思い出だ。その海が一番きれいだったと思う。僕はその海で泳いだりもぐったりしすぎて、水着の中が砂と小さな貝の破片だらけになり、一日中おしりがチクチクするほどだった。

そのビーチでは不思議な事が起こった。遊んでいる内にだんだん潮が引いてゆき、岸か

らはるか遠く、海の真ん中に人が立って歩けるような場所が現れた。また、岸から二十五メートルほど離れた所に島ができて、僕は兄と一緒に不思議に思いながらそこまで泳いだ。今まで見た事がない光景が見られて、僕はとても感動した。まさにカが尽きるまで遊ぶという感じだった。人生の中でこんなに海で遊んだ事はない。

フォートデソトビーチに行く前に、僕たちはマンエスタキーのビーチに行った。そこで見た光景は、旅行の間ずっと僕の心に引っかかっていた。そこは白い砂の広いビーチだったが、なぜか人はあまりいなかった。その砂の上で、僕は魚の死体を三匹ほど見た。それは僕を不安な気持ちにさせたが、そんなに深刻な事だとは思っていなかった。今その数が何千、いや、何万匹になっているのも知らずに。

その後ニューヨークに帰り、ふとニュースを見ていると、フロリダで赤潮という問題が発生している事を知った。それによれば、あ

のシエスタキービーチでは死んだ魚が何万匹も岸に転がっている。これは赤潮の影響だ。

赤潮とはフロリダで毎年見られる自然現象でカレニアブレビスという毒を持っている単細胞生物が大量に発生する時起こる。それが発生すると、その海に暮らしている生物は毒で死んでしまう。

QUARTZというインターネットサイトの記事によると、赤潮の影響でその地域にある七十七のホテルやジェットスキーレンタル店、レストランの九十パーセントの売り上げが落ちたと言っている。地元の人々もビーチには近づかないようにしているそうだ。

赤潮は、最近発見されたわけではなく、十六世紀にスペインの探検家たちが赤く染まった海の岸に魚の死体が大量に散らばっているのを発見して、RED・TIDE（赤潮）と名づけたのが最初だ。十九世紀には正式的に科学者に記録された。赤潮自体は自然現象とも言えるが、地球温暖化でメキシコ湾の水温

が高くなっている。その影響もあり、今年は赤潮がこんなに出ているのだ。

この問題には人間も直接関わっている。赤潮を悪化させる最大の原因は余分な二酸化炭素だ。人間が排出する二酸化炭素は赤潮を成長させる働きをしている。また、農業、建設、堤防などで窒素を含んでいる水が川に流れたりして、それも赤潮を悪化させる。

これを防ぐにはまず地球温暖化への対策を考える事が必要だ。工場などの二酸化炭素の排出量をなるべく自然に優しくて、経済を破壊しない程度に制限する。何かの開発をする時には、自然にどのくらい影響するのか、科学者に相談する。農薬は肥料などによる自然への害を減らす。そうしたら赤潮の成長を減少する事ができるだろう。

旅行から帰り、ツエスタキービーチの映像を見た時は本当に驚いた。あの時きれいだったフロリダの海が、今血まみれの戦場みたいになっている。この状況では人間が行動しな

いと、あの日の美しいビーチがもう見られないかもしれない。赤潮への決定的な対処方法は今だになく、いつ終わるかは今だ分かっていない。けれど僕たちにはできる事がある。赤潮の悪化がおさまり、あの日のビーチがまた見られる事願う。

20×20

恐竜とフェークニュース

W校　六年一組　井手　俊

今年の七月、僕はマンハッタンにあるコロンビア大学に恐竜についての話を聞きに行った。それはニューヨーク地域に住む日本人科学者の集まりのような会で、講演の題は、「古生物学者が観るジュラシックパークとジュラシックワールド」というものだった。コロンビア大学の中に入るのはもちろん初めてだった。会場の建物は古く、通路も複雑で、お化け屋敷みたいだと思った。大昔の研究についていっぱい昔の物がかざられていて、博物館にも見えた。

講演をする部屋に入って、僕はちょっと緊張した。今通っている学校の音楽室のようなところに二十人ぐらいの人がいて、全員大人だった。講演の内容は僕が知らないことだらけで、自分の脳が爆発するぐらいの量を学んだ。本や映画に出てくる恐竜の色は、おおむね適当に決めていることは知っていた。しかし

最近、色素の化石が見つかって、それにより恐竜の正確な色がわかるようになってきたこと、その発掘作業は手作業しかできないことなどは思ってもみなかった。

中でも驚いたのは「羽毛竜」についての話だ。そんな種類の恐竜がいることは誰も想像していなかったが、羽毛の化石が発掘されてやっとよくわしいことが分ってきた。今まで僕は、恐竜はワニの怖い版のようなものだと思っていたが、どうやら多くの恐竜は、毛がフサフサした鳥みたいな生き物だったらしい。フサフサと聞くと、まるで恐竜が怖いよりかわいいように思えてくる。実は今の生き物の中で科学的には、恐竜に一番近いのは鳥なのだそうだ。ひょっとして鳴き声もかわいいのかもしれない。その羽毛を使って作ったふとんはものすごく気持ち良いのかもしれない。逆にいうと、鳥という生き物は、イノコのようなな小さな鳥でもよくよく見るとつめも長くくちばしもその顔も、恐ろしい恐竜のように

20×20

も見えてくる。

ジュラシックパークというのは、ジュラ紀という時代に人間が迷い込んだという設定の映画だ。講演をしていた人が、ジュラシックパークと科学的な事実を比べていたのは面白かった。例えば、ジュラシックパークに出てくる八種類の恐竜のうち、本当にジュラ紀にいたのは実は三種類だった。またティラノサウルスがドアを開けるシーンがあったが、ティラノの手首は人間とつくりが全然違い、手首を回すことなどできないので、ドアを開ける設定は不可能だ。恐竜の色に関しても、映画に出てくる恐竜の正確な色は、今でもほとんど分かっておらず、デザイナーが考えたものだった。

物事を見るときに、偏見というか、事実と違うことをまるで事実であるかのように思ってしまうことがある。例えば最近、三つの州が、ペットを二匹までしか持てないことにする法律を作ったというウソのニュースがあっ

た。ペットが好きな人はそれを信じてしまい、怒りにあふれていた。アメソウではこれをフェイクニュースといい、本当かウソなのか分かりにくいので、信じてしまう人が多い。こういうフェイクニュースを作っている人はほとんどお金のためにやっていることだ。そうなるともう犯罪としか言えない。

なぜフェイクニュースがフェイクだとバカがったのか。それは本当のように見えることでもそのまま信じずに、証拠を集め、筋の通った推理をして、バカっている現実と比べるというステップをふんだからだ。それは恐竜の話しと同じだ。恐竜は、ワニの怖い版のようなものだと思われていたが、得られた事実からフサフサの羽毛竜がいると分かった。また、恐竜の身体の色など分からないという常識を疑って、色が化石から推理できることが明らかになった。科学的に集められた情報からはいろいろな知識が得られる。だが本当に重要な発見は、意志をもって真実をつ

かみに行くことだ。フェイクニュースをフェイクと言い切る力はそこから出る。

科学は、真実を明らかにする剣のようなものだ。でも、それを使うのは人間だ。

世界は変わらないといけない

L工校　六年一組　山際　歌音

私達の生きているこの世界は変わらないといけないと思います。この世界は、色んな所で暴力が存在しています。人種差別、性差別、銃暴力、貧困、戦争など、人々がこの世界をほろぼしていっていると思います。私達の世代は、平和な世界を作るために何をするべきなのでしょうか。

私達は皆同じ人間で、同じように大切な存在なのに、見た目が違ったり、違う文化で育ったりしただけで、差別される事があります。アメリカでは、肌の色や移民という理由で平等に機会を与えられず、くやしくてつらい思いをしている人がたくさんいます。私は、去年学校でいじめにあいました。いじめでつらい思いをしているのに、学校は何もしてくれませんでした。逆に私に責任があるかのようにうたがわれました。なぜかというと、相手は皆お金持ちで力があったからです。私は、

学校が何が正しいかより、力がある方の味方になった事に強いいかりを感じました。

私は、学校で女性が男性と同じくらいか、それ以上の仕事をしても、男性の方が二倍もお金をもらっていると習いました。それは平等ではないと思います。そして、学校でも仕事でも女性が軽く見られていると学びました。アフリカの国では、女の子が毎日遠くまで水をくみに行かないといけないので、学校へ行く事さえできません。女性の教育はどうでもいいと思われています。私は、それは間違っていると思います。私はだれでもみんな教育を受ける権利があると思います。女性が教育を受ければ、もっと社会で色々な事が出来ると思います。

今、アメリカではだれでも銃を手に入れられるからです。私は、もっと法律をきびし

くして、人々が安心して、安全に生活できるようにしないといけないと思います。

この世界では、色んな所で暴力が起きています。私達は、これを止めなければいけません。そのためには、一人一人が何が出来るのか考えて、行動する必要があると思います。

あなたは世界を平和に変えるために何をしますか。

世の中から核兵器をなくすために

L工校　六年一組　猿見田　美汐

今年の夏休みは広島の平和公園と平和記念資料館に行きました。黒こげの人や三輪車の写真を見たり、原爆で生き残った人の手記を読んだりして、原爆のおそろしさや被爆した人の苦しみを少しだけ知る事が出来ました。今は広島の記念碑や資料館に行かなくても本や映像を通して原爆の怖さを知る事が出来ます。それでも世界の国々ではどんどん強力な原爆が作られています。なぜ人々はこのようなおそろしい武器を作り続けるのでしょうか。どうしたら原爆をなくす事が出来るのでしょうか。

第二次大戦後に始まった冷戦時代、アメリカと旧ソ連は対立し、おたがいにいつ相手がせめて来るかをおそれていました。強力な原爆を多数持つ事で、相手より優位に立とうとしていたのです。冷戦時代に、アメリカが行った核実験は一〇五四回にもおよびました。

20×20

核兵器のいカを知った旧ソ連、イギリス、フランス、中国も核兵器を作り始めたのです。冷戦が終わっても、「強い国」としてみとめられるようインドやパキスタンといった発展途上国も核実験を行うようになり、近年では北朝鮮も核実験に成功しています。北朝鮮が核実験に成功した事はアメリカや日本、ヨーロッパの国々を怖がらせる事となりました。原爆は確かに『カ』なのです。

しかし、原爆を作っている人のうち、どれだけの人が自分達が作っている原爆で引き起こされる事を知っているのでしょうか。約七十年前に作られた原爆ですら、今までに約六十万人もの死者を出し数えきれない人々を苦しめたのです。今作られている原爆はその何倍もの強さを持っています。今原爆が使われたら、その被害は広島や長崎の何倍も大きいでしょう。しかし、作っている人は原爆を落とされた街がどうなるか、人が焼け度で顔がなくなってしまったり、皮ふがむけ落ちて血

20×20

だらけになったりする事はきっと知らないのです。だからこんな物を作っていられるのです。そしてもし原爆を落としてしまったら、落とされた国が今度は自分の国に原爆を落し返す事まで考えていないのです。

日本が原爆の事を話そうとすると第二次大戦中、日本に苦しめられた国は日本がやった事をかくすために、原爆の事を言うのだと非難します。しかし、どんな事を言われていても日本は原爆の事は伝えるべきだと思います。原爆を経験して、どんなおそろしい被害があるのかを一番良く知っているのは日本人なのです。世界で起ころうとしている同じまちがいをくり返させないためにも、日本人は核兵器をなくす大切さをうったえていかなければならないと思います。

二〇十七年のノーベル平和賞の受賞者は、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）というNGOでした。このNGOは、世界中の国に核兵器がもたらす被害をうったえ、核兵

20×20

器禁止条約をひじゅんするように働きかけています。今の時点でこの条約をひじゅんしている国は十九ヵ国、署名している国は六十九ヵ国です。けれどもおどろいた事に日本はこの条約に署名もしていなければ、昨年国連で採たくされた時も、投票に参加すらしませんでした。理由は日本はアメリカの核兵器に守られているからなのですが、世界でただ一つの被爆国がそんな事ではいけないと思います。私は広島に行って原爆のおそろしさを知った日本人として、学校で原爆の事を習う時には、勇気を持って原爆がどんな被害をもたらすおそろしいものであるか、そして核兵器は絶対になくさなければならないという事を伝えたいと思います。

20×20

私の考える幸せ

L工校　六年一組
川上　絵美里

今年の夏、私は左手首を骨折し、ギプスをして六週間過ごしました。その時、私はとても大切な事に気付きました。それは、健康で当たり前の日常生活を過ごせるということは、本当に幸せであるということです。そして、私を支えてくれる家族や友人がそばにいるということは、最高に幸せなことだということも実感しました。

私は六週間、左手が全く使えませんでした。右手と両足があれば大体の事ができると思いましたが、そうではありませんでした。まず、学校では、体育の授業に出られず、音楽では、楽器を弾くことができませんでした。教室移動や昼食の配ぜんなども簡単なことでしたが、その時はとても大変でした。さらに、大好きなプールにも行けませんでした。私の心の中には、いら立ちや怒り、悲しみなど色々な感

情がわいてきました。それと同時に、今までの当たり前の日常生活を過ごしていた時が、本当に幸せだったのだと心から思ったのです。

私を支えてくれた人は沢山いました。私の家族や友人は、私が困っている時にいつも助けてくれました。友人は、重い荷物を持ったり、お弁当のふたを開けたりしてくれました。そして、私のギプスにやさしい言葉を沢山書いてくれました。私は友情の温かさを感じました。家族はいつもそばにいて、一緒に楽しく過ごしてくれました。私は家族と友人にとても感謝しました。私を支えてくれる人がそばにいるということは本当に幸せなことだと心から思いました。

骨折したことは、とても残念なことでしたが、その不自由であった時に、私はとても大切なことに気付きました。私は本当に幸せだと思います。健康で家族や友達と毎日を過ごすことができるからです。そんな、日常生活に感謝して毎日がんばって生きていきたいで

す。そして、家族や友達を大切にしていきたいです。みんな、ありがとう。

20×20

運動会を公平に

W校　五年二組
武神　恵実

みなさんの運動会で一番好きな競技は何ですか。ヘビの皮むきですか。つな引きですか。この二つの競技は両方とも、人数が同じでないと不公平な競技です。この競技の面白さをなくさないで、公平にするには、赤と白の人数を同じにすればよいのです。

今年、わたしたち赤組は負けました。でもこれは、負けたからではなく、不公平で負けたと思うから、このことをみなさんにも考えてもらいたいと思いました。運動会の赤白分けをクラスごとにするのは良くないと思いませんか。なぜなら、それぞれのクラスの人数がちがうので、結果として、赤白の人数のちがいは、一人や二人ではなく、もっと多くなります。人数が多いといつも有利なわけではありません。例えば、わたしたち五年生の競技のヘビの皮むきでは、人数が多いほど不利

です。運動会の日、クラスみんなでへびの皮むきをするのを待っていたとき、わたしは友達と相手の人数を数えてみました。そのとき気付いたのは、相手の方が、人数が少ないということです。もう負けるとわかってしまったわたしは、やる気をなくしてしまいました。そして、今の運動会がどれだけ不公平かということにも気付いたのです。徒競走でも、おかしなことがありました。赤と白の人数の差がすごく大きくて、さらに男子が女子といっしょに走ったレースもありました。この不公平さをふせぐことができるのか、わたしは何か自分で変えられることはあるのか、考えてみました。そこで思いついたのは、クラスごとではなく、これぞれのクラスの中で、赤と白に分けるということです。

もちろん、今の運動会のチーム分けでもいいことはあります。例えば、クラスみんなで力を合わせてがんばると、クラス全員が仲良くなります。けれども、クラスの中で赤と白

に分けるとちがう良さがあります。ほ習校では、他のクラスの人と協力する機会はめったにありません。だけど、わたしが提案する分け方をすれば、いつも話さない人や、話したことがない人ともふれ合うことができるとわたしは思っています。

クラスの中でチーム分けをすると、赤白全体の人数の差は、あったとしても一人だけになります。これが本当か、わたしは確かめてみました。それでれのクラスの人数は、偶数か奇数です。まず、クラスを女子と男子に分けます。人数が奇数の場合は、別のクラスの奇数のグループと人数をみながら組み合わせれば、学年全体、最終的には学校全体の赤と白のちがいは、一人か、または、赤と白が同じ人数になります。

わたしにとって来年は、最後の運動会になります。だからこそ、絶対に勝ちたいと思います。でも、不公平な運動会では勝ちたくありません。それぐらいなら、公平な運動会で

負ける方がいいです。チームの努力で勝つ、チームが努力したけど負ける。勝っても負けても楽しい、そんな公平な運動会で終わりたい。今、わたしの心はこんな思いで燃えています。

20×20

日本史からのプレゼント

W校　五年二組

那須　藍貴

「何だ、このさわぎは。」

ねていた「信長」が突然起き上がって叫んだ。

必死で走って来た僕ぶんする森蘭丸は、土下座して、精一杯大きな声で言った。

「とのー。」

「蘭丸、外で何が起こっておる。」

「明智のむほんでございます。」

「敵の軍勢は。」

少しいら立った声で「信長」がたずねた。

「大体一万三千。こちらは百人です。しかし敵は本能寺を囲んでおり、逃れはできませぬ。」

「森蘭丸」は情けなさそうに言った。

「是非に及ばず。」

「信長」の蒼馬君は、素早く堂々と立ち上がった。

今年七月。外は三十五度以上の猛暑日。毎夏体験入学させてもらっている鷺沼小学校の

五年二組で、僕は歴史係として、クラスのために「本能寺の変」の歴史劇の中で森蘭丸を演じていた。

この劇は、僕が四年生で体験入学した時仲良くなった蒼馬君が書いた。歴史係は、五年二組限定らしく、日本史が大好きな生徒達が作った係で、クラスのために月に一、二回歴史劇を演じたり、歴史クイズを出したりする。時々、歴史スタンプラリーも行うらしい。

二年前「たのしく読める日本のすごい歴史人物伝」を読んで以来ずっと日本史に興味を持っている僕は、五年二組の歴史係にワクワクしながら参加した。僕が入った時には「本能寺の変」の歴史劇の台詞はもう書かれていたが、まだ役は決定していなかった。オーディションの結果、田中さんがナレーター、蒼馬君が織田信長、僕が森蘭丸、大塚君が説明役、加藤君が明智光秀、そして木村君が光秀の馬と光秀の足軽に決まった。

僕は、それまで森蘭丸について、小牧長久

手の戦いで戦死した森長可の弟だということと、信長に仕え、光秀と本能寺の変で戦い、戦死したという事しか知らなかった。しかし、「本能寺の変」の劇に参加しながら僕は、自分をぎせいにして信長を最後まで守った蘭丸に強い尊敬の念を抱くようになり、同時に蘭丸はなんてかわいそうなんだろうと思った。

日本史のお陰で、去年も今年も体験入学を通して僕はたくさんの友達を作る事が出来た。日本史に熱意を持っている多くの子が学校に自分の好きな歴史の本を持って来て、僕に見せてくれた。僕はそれらの本を見てびっくりした。ビジュアルで、見ていると自分がまるでその歴史場面に存在しているかのように、僕は引きこまれた。

僕は、超ビジュアル歴史大事典のシリーズの本がほしくてほしくてたまらなくなって、おこづかいのほとんどを使って、本を買いまくった。僕はとても長い間我を忘れて、歴史の本を読み続けた。読んでいると、頭の中に

どんどんその歴史の情景が浮かんで来て、僕はワクワク、ドキドキしてくる。

僕には好きな歴史人物がたくさんいる。平等を重んじた聖徳太子、権力をうばおうとした蘇我氏を勇敢に打ち破った中大兄皇子と中臣鎌足、戦上手でかっこいい源義経、賢く戦略を生み出した軍師山本勘助、斬新な方法で天下統一に最も近かった英雄織田信長、最強の鉄砲隊を持っていた伊達政宗。でも、僕が一番好きなのは、やっぱり徳川家康だ。

「えー、家康が好きなの？」

僕が一番好きな歴史人物は徳川家康だと言うと、いつもみんなにおどろかれる。

家康は誰よりも辛抱強い。三歳で母と別れ、六歳で織田家の人質になり、八歳で今度は今川の人質になった。いつも今川に先陣を命じられ、戦で自分の家来を多く失ったが、文句一つ言わなかった。信長に、長男信康と妻築山殿の切腹を命じられ、涙をのんで受け入れた。秀吉の配下に置かれ、無理矢理国替えも

させられた。いつも我慢し続けて自分の好機を待って、ついに天下統一を果たした。

「戦いでは強い者が勝つ。辛抱の強い者が」

僕は短気で、何かあるとすぐ頭に血が上る。だから、僕は忍耐力のある家康を心から尊敬している。

家康は小さい頃から利発で、日本史を大変よく学んでいた。だからこそ、家康は天下統一を成しとげることが出来たのだろう。家康のことをもっと知りたかった僕は、今年の夏、家康ゆかりの地である岡崎城、駿府城跡、浜松城、久能山東照宮を訪ねた。

僕は、日本史に憧れを持っている。日本史は僕にたくさんの友達を与えてくれた。そして、僕は、好きな歴史人物から人生で大切な事を学んでいる。これから、僕はタくの歴史書や事典などを通して、もっといろいろな見解から日本史を見てみたい。そして歴史的に重要な地を訪ね、自分の大好きな日本史に詳しくなるために精一杯努力していきたい。

20×20

夜空とボクと望遠鏡

L I 校　五年二組
高橋　勇登

この夏、ぼくが日本にいる時に印象に残ったニュースの一つに、十五年ぶりの火星大接近の報道がありました。ぼくは、この機会に望遠鏡を作って火星を見ようと思い、手作り望遠鏡教室に参加しました。教室は、去年も天体観測に来た山の上にある天文台で、夕方から開かれました。周りを見ると、ぼくと同じ年くらいの男子が多くいました。

初めて望遠鏡を作るので、「できるかなぁ。むずかしそうだなぁ。」と最初はキンチョウして不安でした。ドキドキしながらキットのふくろを開くと、そこには大きさや長さのちがうボール紙の円筒が七つありました。まるでトイレットペーパーのしんのようでした。これで本当に望遠鏡が出来るのか、ぼくは想像できませんでした。よく見ると、レンズも二つ入っていました。一つは接眼レンズという中央

がうすい凹レンズで、もう片方は対物レンズという中央が厚い凸レンズでした。しょう点きょりが異なる二つのレンズの組み合わせで倍率が決まり、ぼくの作る望遠鏡は三十五倍率と教わりました。一番びっくりしたのが、望遠鏡は全部逆さまで左右反対に見えるということです。ぼくは、本当にそんな風に見えるのか早く確かめたくて、望遠鏡を作るのがますます楽しみになりました。

ぼくは、しん重に七つの筒をセロハンテープと木工ボンドでくっつけながら組み立てました。レンズに直接さわらずに、筒の中に入れるのがとてもむずかしくて、手がふるえました。一時間かけて作り上げた時、「やったあ。やっと終わったあ。」とほっとしました。出来上がった望遠鏡は、軽くて細長くて、白と黒でかっこよく見えました。しかし、これで本当に月などが見えるのか、不思議でたまりませんでした。

いよいよ天体観測の時間がきて、ぼくは、

自分の望遠鏡を三きゃくに固定して、月が出ている方角へレンズを向けました。外は日がくれていてもまだむし暑くて、蚊にさされないように長そでを着ていたので、みんな汗だくでした。ファインダーで月の位置を確認して、スライダーを前後に動かしてみたけれど、何度やっても上手くピントが合わなくてくやしかったです。先生に手伝ってもらってピッたりピントが合った時は、「見えた！」と、うれしくてわくわくしました。月の細かいクレーターまで見えて感動しました。初めて土星のわっかもはっきり見えて興ふんしました。火星は肉眼でもよく見えたけれど、望遠鏡で見ると真っ赤に燃えているように見えました。そしてなんと、国際宇宙ステーションが、光のつぶみたいにゆっくりと西の夜空を移動しているのも見ることが出来ました。国際宇宙ステーションからぼくらが見えないのは分かっていたけれど、ぼくは応えんの気持ちを伝えたくて、見えなくなるまでの五分間、バイ

バイと大きく手をふって見送りました。他にも、木星や金星も見えて、先生は、

「こんなにたくさんのわく星が同時に見られるのは大変めずらしい。君達はラッキーだ。」

と、うれしそうにおっしゃっていました。

夜空いっぱいの星やわく星、国際宇宙ステーションまで見られて、すごく運が良くて、すばらしい経験が出来ました。手作りの望遠鏡が、夜空とぼくをつなげてくれた夜でした。

望遠鏡は、宇宙を身近に感じられて、細かい所まで観察できるし、上下左右が反対でも関係なく楽しめるところが面白いと思いました。

あの夜から、ぼくは夜空を見上げて星や月を探すようになりました。大事に持って帰って来た手作り望遠鏡で、いつかニューヨークでも天体観測をしたいと願っています。

ペンギンが好きな飼育員

W校　五年一組
宮澤　ゆう

「ペンギンが好きな飼育員」これを見て、あなたはどう思う。ただうか。ペンギンが好きな「飼育員」なのか、「ペンギン」が好きな飼育員なのか、一しゅんどちらかまよったのではないだろうか。これは、意外と難しい日本語の例だ。このような文章は色々あり、私も時々こんがらがることがある。私は、それについて考えてみた。

まず、なぜ複数の意味が一つの文章にふくまれているのかということについてだ。会話は発音などで少し分かりやすいが、プリントなどに書かれている文章だと、どういう意味なのかわからない時がある。こういう文章は、目的語がはっきりしていないことからなるものだ。文のまとめ方によって意味がちがう文章は意外とたくさんあり、全員が同じ様にまとめるとは限らない。そして、それによって

けんかを引き起こしたり、誤解をまねいたりすることもあるので、メールなどをよく使う私たちは気を付けなければいけない。

私は、こういう文章で失敗したことがある。学芸会で、プリントに「赤いリボンがついた服を着てきてください。」とかいてあり、「赤いリボン」がついた服を着てくれればいいのだなと思い、赤いリボンがついた服を着ていった。しかし、みんなはリボンのついた「赤い」服を着ていて、目立ってはずかしい思いをしたことをおぼえている。これ以外にも、メールなどで、「これ、どっちにしたらいいのかな」という ような文章がたくさんあり、その度になやんでしまう。一番いいのは、その文章を書いた相手に意味を聞いたり、他の人と確認したりすることだが、相手がだれかわからない場合、チャレンジしてみるのが手っ取り早い。そこは、あなたの勇気次第だ。また、誤解をまねくのをふせぐために、文章にいろい

な工夫をするのも一つの方法だろう。

このように、文章を書いてわたしたり、迷信したりするときは、変な意味で受け取られないように、しっかりとチェックすることが必要だ。それに、私たちはインターネットなどで、声を使わずにやりとりすることが多くなってきているので、相手を不快な気分にさせないように、いつもわかりやすい表現などを使うことを心がけよう。